

高齢者の療養生活支援の学びを深める教授内容と方法の検討 —介護老人保健施設の若手看護師による特別講義の課題シートの分析—

坪井桂子¹，清水昌美¹，鈴木千枝²，沼本教子¹

¹神戸市看護大学，²前神戸市看護大学 神戸大学大学院保健学研究科

キーワード：介護保険施設、特別講義、教育内容と方法、学習意欲

Examination of the Educational Contents and Method to Deepen the Study on Supporting Elderly for Their Recuperation Life —Analysis of the assignment-sheet with Special Lecture by Young Nurse in Geriatric Health Service Facilities—

Keiko TSUBOI¹，Masami SHIMIZU¹，Yukie SUZUKI²，Kyoko NUMOTO¹

¹Kobe City College of Nursing，

²Former Kobe City College of Nursing，Kobe University Graduate School of Health Sciences

Key words：Long-Term Care Insurance，Special Lecture，Educational Contents and Method，Motivation for Learning

I. はじめに

我が国では急速な高齢化の進展（厚生労働統計協会，2012）に伴い、認知症を有する高齢者数が増加（厚生労働省，2012）している。そのような社会情勢をふまえ、最期まで在宅で暮らすことを目指す施策が推進されている。このような背景の中、看護職には、健康に老いることへの支援、療養が必要となった際には最期までその人らしく生きることへの支援が望まれている。そして、看護系大学には、上述したような高齢者看護の実践能力を修得した看護職の育成が期待されている。

しかしながら、看護学生が高齢者看護の実践能力を修得することは容易ではないため、教員には教育内容、方法の工夫が必要となる。看護基礎教育における教育内容、方法に関する研究として、高齢者の理解を深め、看護実践能力の修得を目指した講義（木嶋，2011；張，2012）、演習（長畑，2004；原ら2005，上平2009）、実習（伊藤ら，2010；高橋ら，2010）が報告されている。また、学生の学習への動機や意欲が高まるように、患者（石原ら，2004；古市ら，2003）、模擬患者（富安ら，2004）による特別講義後のレポート分析による学習成果が報告されている。高齢者ケア施設の看護師による

特別講義とその効果に関しては、小野ら（2008）の報告があるのみである。この報告では、講義が学生の高齢者ケア施設の特徴や現状および看護師の実態の理解に繋がったことを示している。加えて、臨床看護師による特別講義において高齢者の療養生活支援の学びを深めるためには、科目担当教員が講師と密に連携し準備することが必要である。具体的には、特別講義の目的、ねらい、科目における位置づけ、講師に期待する役割を講師と科目担当教員が共有し、日常の講義と連続性を持たせ学生との関係を築くことができるような準備が必要と考える。

II. 研究目的

本研究の目的は、介護老人保健施設に働く若手看護師の特別講義の前後に学生が記述した「課題シート」を分析し、高齢者の療養生活支援の教育内容と方法を検討する基礎的資料を得ることである。

III. 講義内容・方法の概要

A 大学においては、高齢者の療養生活の支援方法を

教授する科目として「老年療養生活支援論」（以後、本科目）を臨地実習前の2年次後期に位置づけている。また、本科目では、3年次より開始される臨地実習への準備性を高めるとともに、将来にわたり高齢者看護の実践上の基盤となる知識の修得、看護観の醸成を目指している。

特別講義は、これまでの講義で修得した知識を基盤に介護保健施設における看護師の役割、看護実践を理解し臨地実習に臨む学習となるように、15回の講義の14回目に実施した。講師は、学生が親しみやすさを持てるように学生との年齢が近いこと、臨地実習の準備に繋がるように一般病院ではなく介護老人保健施設の看護師を選定した。具体的には、看護系大学を卒業後一般病院に2年間勤務し、その後介護老人保健施設に就業し、新任期（1～3年）に高齢者看護の実践能力を育成する教育支援プログラム（坪井, 2013）による教育を受けた3年目の看護師に講義を依頼した。

講義内容は、①施設の概要、②介護老人保健施設に就職して嬉しかったこと、大変だったこと、一般病院と介護老人保健施設の違い、看護師と介護職の仕事の違い、転職時期について、転職を決意した思い③介護老人保健施設における高齢者看護の実践（老年期に多い疾患や病態の看護、急変時の対応、死の看取りの経験から学んだこと）、④生涯学習への取り組み（大学院への進学について）、⑤今後の展望・課題であった。講義は所属施設の実習の様子を撮影したDVDや写真を紹介し、イメージができるような講義方法の工夫を依頼した。講義時間は、約60分の講義後に約30分の質疑応答の時間を設けた。学生の学習意欲を高めることを意図した事前課題として、講義前に特別講師の書いた文献（石原ら, 2010; 石原ら, 2012）、特別講師を紹介した文献（坪井, 2011）を抄読した上で課題シートの記入を課した。課題シートは、学びを深めるために4項目を研究者が設定した。その項目は、講義前に講師の文献を読み「講義に期待すること」、「質問したいこと」2項目、講義後に「講義を受けて学んだこと」、「講師へのメッセージ」2項目とした。課題シートの記入方法を説明する際に、講義前に記入した課題シートは学生の講義のニーズを講義内容に反映するため講師に送付すること、講義後に記入した課題シートは、学生にフィードバックできるように講師に送付しコメントをもらい最終の授業で伝えることを説明した。

IV. 研究方法

1. 対象：A大学の2年次後期の本科目の受講者74名
2. 方法：課題シートを受講者全員に配布し、講義前に2項目、講義後に2項目の記述を求めた。講義前の2項目は、記述の際には意見を書きやすいように質問を分けたが、分析時には統合し1項目とし、講義後の2項目は各々、記述内容の類似性に基づき分類し、研究者間で合意が得られるまで検討した。
3. 倫理的配慮：対象者に研究目的・方法、プライバシーの保護、研究参加は自由意思によること、同意の有無は成績認定に関係ないこと等を口頭と文書で説明し、同意書を得て実施した。若手看護師には、研究目的、方法を口頭で説明し、研究として報告することの同意を得た。

V. 結果

受講者74名中、研究協力の同意を得られた64名(86.4%)を対象とした。

1. 講義に期待すること、質問したいこと

分析の結果、講義に期待すること、質問したいことは、9の大カテゴリー、29の小カテゴリーに整理された。以下、大カテゴリーを【 】, 小カテゴリーを《 》、記述内容を[]で示す。

表1に示すように講義に期待すること、質問したいこととして、【高齢者や家族との接し方、関わり方、看取りなど具体的な援助方法】、【介護老人保健施設の現状、職場環境、一般病院との看護の違い】、【介護老人保健施設で働く看護師の魅力、やりがい、辛さ、乗り越え方】【介護老人保健施設における看護師の役割と他職種との連携方法】【介護老人保健施設における倫理的課題と尊厳を守るための取り組み】【介護老人保健施設での看護に興味をもち、働くことを決心したきっかけ】【新人の看護師が介護老人保健施設に就職することの良さや困難さ】【新任期の看護師の介護老人保健施設への就職と就職後の教育支援の内容】【看護師としての将来に繋がる話】が挙げられた。

【高齢者や家族との接し方、関わり方、看取りなど具体的な援助方法】は、《高齢者や家族との接し方、関わり方》、《高齢者看護で大切な視点、考え方、具体的な援助方法》等で構成された。【介護老人保健施

設の現状、職場環境、一般病院との看護の違い】は、《介護老人保健施設の現状、実態、職場環境、勤務体制》、《一般病院と介護老人保健施設で働くこと、看護の違い》等で構成された。【介護老人保健施設で働く看護師の魅力、やりがい、辛さ、乗り越え方】は、《病院とは異なる介護老人保健施設での看護師の役割》、《介護老人保健施設で働いて感じたこと、思い、経験事例や学んだこと》等で構成された。【介護老人保健施設における看護師の役割と他職種との連携方法】は、《介護老人保健施設における他職種の役割と連携方法》、《介護老人保健施設における看護師の役割》で構成された。【介護老人保健施設における倫理的課題と尊厳を守るための取り組み】は、《高齢者の権利や尊厳を守る関わり方》、《介護老人保健施設で取り組みが必要な倫理的課題への取り組み方法》等で構成された。【介護老人保健施設での看護に興味をもち、働くことを決心したきっかけ】は、《介護老人保健施設での看護に興味をもち、働くことを決心したきっかけ》、《高齢者看護に興味や魅力を持ったきっかけ》

で構成された。【新人の看護師が介護老人保健施設に就職することの良さや困難さ】は、《勉強し実践を積める施設や就職の選択肢は病院だけでないこと》、《新人の看護師が介護老人保健施設に就職することの良いこと、困難さ、思い》等で構成された。【新任期の看護師の介護老人保健施設への就職と就職後の教育支援の内容】は、《新任期の看護師の介護老人保健施設への就職準備と就職後の支援体制》、《新任期の看護師として受けた教育支援の内容》で構成された。【看護師としての将来に繋がる話】は、《学生時代の学習過程、学ぶべきこと》、《就職、進路、自分の将来の夢を考える参考にできる話》で構成された。

講師は、幼少期より看護師になりたかった夢をもっていたこと、看護系大学に入学し、卒業したら夢がなくなってしまうと不安に思っていたこと、学生時代から就職したいと思っていた実習施設であった介護老人保健施設に転職できたことなど自己を開示した内容が

表1 講義に期待すること、質問したいこと

小カテゴリー	大カテゴリー
高齢者や家族との接し方、関わり方	高齢者や家族との接し方、関わり方、看取りなど具体的な援助方法
高齢者看護で大切な視点、考え方、具体的な援助方法	
認知症高齢者との向き合い方、援助方法	
その人らしさを引き出す看護方法	
介護老人保健施設における看取り、その人らしい最期の迎え方、人の最期への向き合い方	
認知症や終末期の困難事例へのアプローチ方法	介護老人保健施設の現状、職場環境、一般病院との看護の違い
介護老人保健施設の現状、実態、職場環境、勤務体制	
一般病院と介護老人保健施設で働くこと、看護の違い 労働条件についての考え	
病院とは異なる介護老人保健施設での看護師の役割	介護老人保健施設で働く看護師の魅力、やりがい、辛さ、乗り越え方
介護老人保健施設で働いて感じたこと、思い、経験事例や学んだこと	
介護老人保健施設で働く看護師の魅力、やりがい、辛さ 働く中で辛かったり、苦しかった時の乗り越え方	
介護老人保健施設における他職種の役割と連携方法	介護老人保健施設における看護師の役割と他職種との連携方法
介護老人保健施設における看護師の役割	
介護老人保健施設の倫理的課題とその取り組み	介護老人保健施設における倫理的課題と尊厳を守るための取り組み
高齢者の権利や尊厳を守る関わり方	
介護老人保健施設で取り組みが必要な倫理的課題への取り組み方法	
介護老人保健施設での看護に興味をもち、働くことを決心したきっかけ	介護老人保健施設での看護に興味をもち、働くことを決心したきっかけ
高齢者看護に興味や魅力を持ったきっかけ	
勉強し実践を積める施設や就職の選択肢は病院だけでないこと	新人の看護師が介護老人保健施設に就職することの良さや困難さ
新人の看護師の介護老人保健施設への就職事例	
介護老人保健施設への就職を決意した気持ち、過程、努力したこと	
新人の看護師が介護老人保健施設に就職することの良いこと、困難さ、思い	新任期の看護師の介護老人保健施設への就職と就職後の教育支援の内容
新任期の看護師の介護老人保健施設への就職準備と就職後の支援体制	
新任期の看護師として受けた教育支援の内容	
学生時代の学習過程、学ぶべきこと	看護師としての将来に繋がる話
就職、進路、自分の将来の夢を考える参考にできる話	
今後の目標、目指す看護師像	

語られた。

2. 講義を受けて学んだこと

表2に示すように、講義を受けて学んだことは、9の大カテゴリー、18の小カテゴリーに整理された。大カテゴリーは、【介護老人保健施設における看護師の役割と責任の重さ、尊さ】、【介護老人保健施設における高齢者看護の理解】、【看護師として、高齢者に向き合い、寄り添う姿勢の大切さ】、【高齢者看護におけるアセスメント、実施、評価の重要性】、【高齢者と家族の関係性や生き方を尊重した関わり方】、【チームにおける他職種との連携・協働の意義と方法】、【看護師になるために必要な学習、実習への取り組み方】、【看護師として、実践を振り返り、自己研鑽し続けることの大切さ】、【介護老人保健施設における若手看護師の取り組みが看護の変革に繋がること】が挙げられた。

【介護老人保健施設における看護師の役割と責任の重さ、尊さ】は、《介護老人保健施設における看護師と介護職の役割》、《介護老人保健施設における看護師の責任の重さと尊さ》で構成され、【介護老人保健施設における高齢者看護の理解】は、《介護老人保健施設のイメージの変化と理解の深まり》、《介護老人保健施設における高齢者看護の実際がイメージできたこと》、《高齢者看護の魅力と困難さ》で構成された。これらは、介護老人保健施設に働く看護師の講義だけ

らこそ得られた学びであった。特に《介護老人保健施設における看護師の責任の重さと尊さ》は、[ほのぼののしていそうな現場であるが、責任感が重く、本当に尊く、大変な仕事だと思った]、[介護老人保健施設では介護職の人数が多く、看護職の人数が一般病院に比べて少ない状況であることによって、一人一人の看護師が責任を持って働かなければならないのだなと思った]というように責任の重さだけでなく、人生の最期を支えるという看護師の仕事の尊さも学ぶことができていた。【看護師として、高齢者に向き合い、寄り添う姿勢の大切さ】は、《看護師としての姿勢、あり方》、《高齢者に向き合い、寄り添う姿勢の大切さ》で構成された。【高齢者看護におけるアセスメント、実施、評価の重要性】は、《個々の高齢者のアセスメントと実施したケアの評価の重要性》、《実施したケアを評価することの重要性》で構成された。これらは、[事例の中で、疾患があっても症状が現れないことがあることを聞き、利用者一人ひとりのことをよく理解した上で、ケアを考えなければいけないことを学んだ]、[事例で、高齢者の特徴的な症状が出にくいということの説明を聞いて、実際にどのようなことなのかがよく分かった]、[今大学で学んでいる意識レベルの評価や患者の状態観察などは、介護老人保健施設においてもよりよいケアを実施したり、異常の早期発見のためにとっても大切なのだと思った]というようにこれまで

表2 講義を受けて学んだこと

小カテゴリー	大カテゴリー
介護老人保健施設における看護師と介護職の役割	介護老人保健施設における看護師の役割と責任の重さ、尊さ
介護老人保健施設における看護師の責任の重さと尊さ	
介護老人保健施設のイメージの変化と理解の深まり	
介護老人保健施設における高齢者看護の実際がイメージできたこと	介護老人保健施設における高齢者看護の理解
高齢者看護の魅力と困難さ	
看護師としての姿勢、あり方	看護師として、高齢者に向き合い、寄り添う姿勢の大切さ
高齢者に向き合い、寄り添う姿勢の大切さ	
個々の高齢者のアセスメントと実施したケアの評価の重要性	高齢者看護におけるアセスメント、実施、評価の重要性
実施したケアを評価することの重要性	
高齢者と家族の関係性の発展を促す関わり方	高齢者と家族の関係性や生き方を尊重した関わり方
人生の統合に向けて生き方を尊重した関わり方の大切さ	
チームにおける他職種との連携・協働の意義と方法	チームにおける他職種との連携・協働の意義と方法
実践におけるカンファレンスの意義	
看護師になるために必要な学習、実習への取り組み方	看護師になるために必要な学習、実習への取り組み方
看護実践を振り返り、課題に取り組むことの重要性	看護師として、実践を振り返り、自己研鑽し続けることの大切さ
看護師として自己研鑽することの意義と方法	
介護老人保健施設における新任期の看護師の教育支援の実際	介護老人保健施設における若手看護師の取り組みが看護の変革に繋がること
若手看護師の課題への取り組みが看護の変革に繋がること	

の講義内容の意味づけがされていた。【高齢者と家族の関係性や生き方を尊重した関わり方】は、《高齢者と家族の関係性の発展を促す関わり方》、《人生の統合に向けて生き方を尊重した関わり方の大切さ》で構成された。家族との関わり方については、[利用者とその家族間でコミュニケーションがうまくとれていない時に、その原因が職員の説明の仕方に問題があるのではないかとし、伝え方を変えることで家族間のコミュニケーションに少しは影響を与えることができた]と知り、ケアを考える時や患者、利用者の思いをくみ取る時に、少し視点を変えてものをみるのが大切であると感じた]というように具体的な事例が示され、高齢者と家族の関係性の深め方を学んでいた。【チームにおける他職種との連携・協働の意義と方法】は、《チームにおける多職種との連携・協働の意義と方法》、《実践におけるカンファレンスの意義》で構成された。学生は、他職種との連携を深める方法としてカンファレンスが重要な意味を持つことを理解していた。【看護師になるために必要な学習、実習への取り組み方】は、[高齢者に対する思いや大切にしていることを話してもらい、実習で思ったように患者に学ばせてもらっているということと同じだと思った]、[失敗から意識レベル評価スケールを考案したことについて、実習に行った時に自分自身もこのような振り返りが行えたらいいなと感じた]というように、2年次の基礎実習を想起し、講師と自分の共通性を見出そうとし、3年次の実習の取り組みのイメージ化をはかっていた。【看

護師として、実践を振り返り、自己研鑽し続けることの大切さ】は、《看護実践を振り返り、課題に取り組むことの重要性》、《看護師として自己研鑽することの意義と方法》で構成された。[大学内で学ぶこともたくさんあるが、看護師は現場に出てからが多くのことを学ぶ必要があることがわかった]、[教育支援プログラムについても知ることができ、一つひとつのケアを振り返り、自分の目標を達成できるようにすることで成長できることが分かった]というように、将来の看護師像を描いていた。【介護老人保健施設における若手看護師の取り組みが看護の変革に繋がること】は、《介護老人保健施設における新任期の看護師の教育支援の実際》、《若手看護師の課題への取り組みが看護の変革に繋がること》で構成された。《介護老人保健施設における新任期の看護師の教育支援の実際》では、[一般病棟で勤務した期間が短く、経験した事例が少なくても、教育支援プログラムを受けたり、外部へ勉強しに行ったりすることで、介護老人保健施設でも順応できることを知った]というように、講師が介護老人保健施設で受けた教育を知ることができていた。また、《若手看護師の課題への取り組みが看護の変革に繋がること》では、[看護師3年目という若い目で現場を見ていくことも、今後の看護にとって大きな変革になることを学んだ]、[介護老人保健施設で、若手の看護師を受け入れることは難しいが、若手ならではの視点があったりして、プラスになる面も多くあることを初めて知った]、[呼吸器疾患の再発予防に向けて3

表3 講師へのメッセージ

小カテゴリー	大カテゴリー
現場での体験や映像を取り入れた説明は具体的でイメージしやすかった	若手看護師の体験、映像による説明はイメージしやすく身近に感じた
若い看護師による講義は、身近に感じられた	
介護老人保健施設の実際を知ることができた	
介護老人保健施設への興味・関心が高まった	介護老人保健施設および看護の実際を学び、興味・関心が高まった
介護老人保健施設における看護の実践を学ぶことができた	
介護老人保健施設の看護は大変そうだった	
高齢者への向き合い方を学んだ	高齢者への向き合い方、看護実践能力の大切さを学べた
看護職として必要な実践能力の大切さを学んだ	
若い看護師の可能性を実感した	
将来のことを考える参考になった	若手看護師の可能性を実感し、看護師になることへの期待が高まった
看護師になることや実習への期待が高まった	
講師の行動力や努力する姿に尊敬の念を抱いた	
講師の熱意や生き生きとした姿に魅力を感じた	講師の行動力や努力する姿に尊敬の念を抱き、魅力を感じた
講師の頑張りを応援したい	
講師の姿や言葉に頑張る力をもらい、意欲が湧いた	若手看護師の姿や言葉に頑張る力をもらい、学習意欲が湧いた
自身の学習・実践に活かしたい	

日間集中アセスメントシートを作成しており、その人に合わせたものを作ることで、どの看護師も分かるようになり、とても良いものだ]と学んだ]というように、経験年数が少ない若手看護師が施設に大きな影響を及ぼす看護の変革者となりうることを学んでいた。

3. 講師へのメッセージ

表3に示すように、講師へのメッセージは、6の大カテゴリー、16の小カテゴリーに整理された。大カテゴリーは、【若手看護師の体験、映像による説明はイメージしやすく身近に感じた】、【介護老人保健施設および看護の実際を学び、興味・関心が高まった】、【高齢者への向き合い方、看護実践能力の大切さを学べた】、【若手看護師の可能性を実感し、看護師になることへの期待が高まった】、【講師の行動力や努力する姿に尊敬の念を抱き、魅力を感じた】、【若手看護師の姿や言葉に頑張る力をもらい、学習意欲が湧いた】が挙げられた。

【若手看護師の体験、映像による説明はイメージしやすく身近に感じた】は、《現場での体験や映像を取り入れた説明は具体的でイメージしやすかった》、《若い看護師による講義は、身近に感じられた》で構成された。DVDや写真が学習に効果的であったことがメッセージとして挙げられた。【介護老人保健施設および看護の実際を学び、興味・関心が高まった】は、《介護老人保健施設への興味・関心が高まった》、《介護老人保健施設における看護の実際を学ぶことができた》で構成された。[介護老人保健施設で働くことは大変なイメージがあったが、今回話を聞いて、楽しく働いていることを知り、看護師として介護老人保健施設で働くことに対する印象が変わった]というように、熱意のある講義に介護老人保健施設で働くことへの興味、関心が高まる内容が挙げられた。【高齢者への向き合い方、看護実践能力の大切さを学べた】は、《高齢者への向き合い方を学んだ》、《看護職として必要な実践能力の大切さを学んだ》で構成された。

【若手看護師の可能性を実感し、看護師になることへの期待が高まった】は、《若い看護師の可能性を実感した》、《看護師になることや実習への期待が高まった》で構成された。《看護師になることへの期待が高まった》では、[今日の講義を受けて、看護師になることは大変かもしれないが、それ以上に得るものが多いと改めて感じた]というように、看護師になることへの期待と学習意欲の高まりが示された。

【講師の行動力や努力する姿に尊敬の念を抱き、魅力を感じた】は、《講師の行動力や努力する姿に尊敬の念を抱いた》、《講師の熱意や生き生きした姿に魅力を感じた》で構成された。【若手看護師の姿や言葉に頑張る力をもらい、学習意欲が湧いた】は、《講師の姿や言葉に頑張る力をもらい、意欲が湧いた》、《自身の学習・実践に活かしたい》で構成された。講義を受けたことによって頑張る力を得たことや看護を学ぶ学習者としてのありがたい自己の姿が示された。

VI. 考察

本研究は、介護老人保健施設に働く若手看護師の特別講義の実施前後に学生が記述した「課題シート」を分析することにより、高齢者の療養生活支援の学びを深める教育内容と方法を検討した。

講義前の「課題シート」の講義に期待すること、質問したいこととして挙げられた【介護老人保健施設における看護師の役割と他職種との連携方法】と講義後の「課題シート」の講義を受けて学んだこととして挙げられた【チームにおける他職種との連携・協働の意義と方法】は、ほぼ一致した内容であった。すなわち、講義に期待すること、質問したいことは、概ね講義に反映できていた。加えて、【介護老人保健施設および看護の実際を学び、興味・関心が高まった】、【介護老人保健施設における若手看護師の取り組みが看護の変革に繋がること】というように、講義前に抱いていた介護老人保健施設のイメージが払拭され、学習意欲が高められた内容が抽出された。これらのことから、「課題シート」は、講義前の導入としては、効果があったと考える。そして、本研究では特別講義における多くの学びが明らかにされた。この理由として、本科目の構成を検討し、特別講義を療養生活の支援内容、方法の基礎的な知識を学んだ後の最終段階に配置したこと、学生にとって身近と感じられるように若手看護師を起用したこと、リアリティを感じることができるよう介護老人保健施設の若手看護師としたこと等、教育方法を工夫したことが挙げられる。したがって、特別講義の導入には、講師の選定、事前課題の設定等、教育方法を検討することが必要と考える。

講義を受けて学んだこととして【看護師になるために必要な学習、実習への取り組み方】では、[高齢者に対する思いや大切にしていることを話してもらい、

実習で思ったように患者に学ばせてもらっているということと同じだと思った]という学びが挙げられた。また、【看護師として、高齢者に向き合い、寄り添う姿勢の大切さ】では、高齢者と関わり、看護をしっかりと学んで自分のものにし、次に活かしていく姿勢の大切さを学んでいた。これらの学びが得られたのは、講義の中で「急変を見逃した経験」、いわば失敗の経験を次の実践に活かそうとする事例が紹介されたことが影響していると考えられる。つまり、学生にとっては講師の経験を追体験できる事例であったため、学びとして挙げられたと考える。このような学びに繋がる教育内容・方法として、看護のあるべき姿を語るのではなく、できなかった経験を次にできるようにするためのプロセスを丁寧に説明することで、共感が生まれ、学習への取り組み方を学ぶことに繋がったと推察される。したがって、講義の中で看護実践を説明するプロセスにおいては、学生のレディネスに合わせるだけでなく、学習途上の学生に共感が得られる教育内容として特に事例を含めることの重要性が示された。

また、講師へのメッセージとして、【講師の行動力や努力する姿に尊敬の念を抱き、魅力を感じた】、【若手看護師の姿や言葉に頑張る力をもらい、学習意欲が湧いた】が挙げられた。このように、年齢の近い講師が介護老人保健施設における高齢者看護の実践を生き生きと語ることは、講師と学生との心理的な距離を縮めただけでなく、学習意欲の喚起に繋がったと推察される。そして、【若手看護師の可能性を実感し、看護師になることへの期待が高まった】では、[今日の講義を受けて、看護師になることは大変かもしれないが、それ以上に得るものが多いと改めて感じた]ことが挙げられたように、看護師になることへの期待と学習意欲の高まりが示された。臨床の看護師の講義による学習効果については、「学習意欲の向上」、「目標とする看護師像の獲得」等が報告(金子ら, 2013)されており、本研究の結果と一致していることから、看護師による特別講義の有用性が示されたといえよう。以上より、学生との心理的な距離を縮め、実践している看護を等身大で真摯に伝える講義は、看護職を目指す学生の学習意欲の喚起や看護師になることへの期待の高まり等の学習効果が得られるものと考えられる。

本研究では、講義を受けて学んだこととして、【看護師として、実践を振り返り、自己研鑽し続けることの大切さ】から看護師として働くことのイメージ化を

はかり、【介護老人保健施設における若手看護師の取り組みが看護の変革に繋がること】から看護師の人数が少なく、倫理的課題も多い介護老人保健施設において若手看護師が看護の変革に貢献している実態を理解していた。さらに、講師へのメッセージとして、【若手看護師の可能性を実感し、看護師になることへの期待が高まった】ように、看護師になるという期待を高めていた。このように、特別講義では、介護老人保健施設における看護の実状や療養生活支援の学びに留まらず、看護専門職として働くことの理解に繋がっていた。アメリカにおいて看護学生が高齢者ケア施設の Externship Program に参加することの意義が報告されている。それによると、Program に参加した看護学生が Program の終了後に高齢者看護や高齢者ケア施設への関心が高まったという (Elaine, et al, 2012)。本研究では、特別講義に関する報告であり教育方法は異なる。しかしながら、【若手看護師の姿や言葉に頑張る力をもらい、学習意欲が湧いた】等学習意欲の喚起が示されたように、看護学生に高齢者施設の看護を学ぶ機会を実習前より提供することは、高齢者看護の学習意欲を高め、ひいては高齢者看護の実践能力を高めることに繋がるものと考えられる。したがって、看護職として働くことへの理解を深めるためには、看護師になる目標に向かって学習意欲を高めることができるように、臨床の場で実践している看護師を起用した特別講義の導入は有用であるといえよう。

以上より、学生の共感に繋がる看護実践を真摯に講義できる講師の意図的選定、学習の統合が可能な時期に設定することが高齢者の療養生活支援の学びを深める教育方法として重要であることが示唆された。

Ⅶ. 結論

1. 特別講義の導入には、学生の共感に繋がる看護実践を真摯に講義できる講師の意図的選定、学習の統合が可能な時期に設定、事前課題の設定等教育方法を工夫する必要がある。
2. 高齢者の療養生活支援の学びを深める教育内容として、講義の中で看護実践を説明する際に、学生のレディネスに合わせるだけでなく学習途上の学生に共感が得られるような事例を含めること、学生との心理的な距離を縮めるような看護実践が真摯に伝わる内容とすることが重要である。

3. 本特別講義は、介護老人保健施設における看護の実状や療養生活支援の学びに留まらず、看護職を目指す学生の学習意欲の喚起や看護師になることへの期待が高まり、看護専門職として働くことへの理解に繋がっていた。

謝辞

本研究にご協力を頂きました学生の皆様、講師の介護老人保健施設サンリバーはつらつ看護師石原弥栄様に心より感謝申し上げます。本研究の一部は、日本看護学教育学会第23回学術集会（仙台）で発表しました。

引用文献

- Elaine Souder, Claudia J. Beverly, Stephanie Kitch, et al (2012). *Nursing Education perspectives*, 33(3), 166-169.
- 金子吉美, 浅見多紀子 (2013). 救命救急センターに勤務する看護師の講義による看護学生への影響, *日本看護学会論文集看護総合*, 43, 291-294.
- 厚生労働省 (2012). 認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数について検索月日. 2012年12月25日, <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002iaui-att/2r9852000002iavi.pdf>
- 厚生労働統計協会 (2012). 厚生の指標増刊国民衛生の動向, 59 (9), 42.
- 張平平, 田中敦子, 大塚眞理子他 (2012). 看護学生の感想レポートの分析からみた元気高齢者による講義の意義. *老年看護学*, 16(2), 86-94.
- 古市めぐみ, 堀容子, 滝益栄他 (2003). 終末期看護における教育方法の検討: 肺癌患者による特別講義を導入して. *日本赤十字愛知短期大学紀要*, 14, 133-138.
- 原祥子, 小野光美, 沼本教子 (2005). 看護実践能力育成に向けた高齢者擬似体験の実際と学習効果. *神戸市看護大学紀要*, 9, 63-73.
- 石原弥栄美, 川崎葉月, 坪井桂子他 (2010). 認知症高齢者が心穏やかに入浴するための援助方法の検討. *第40回日本看護学会論文集老年看護*, 39-41.
- 石原弥栄美, 坪井桂子, 佐野弘美他 (2012). 高齢者ケア施設における倫理的課題に対する取り組みの検討.

- 第42回日本看護学会論文集老年看護, 24-27.
- 石原由華, 滝益栄, 甲村朋子他 (2004). 終末期看護における教育方法の検討: 終末期患者の体験談聴講後のレポート分析を通して. *日本赤十字愛知短期大学紀要*, 15, 53-59.
- 伊藤豊美, 住垣千恵子, 後藤友美他 (2010). 看護学実習における看護学生の高齢者に対するイメージの変化. *国立看護大学校研究紀要*, 9(1), 37-42.
- 木島輝美, 安川揚子, 武田かおり他 (2011). 高齢者の生活機能に焦点をあてた看護過程演習の授業方略に対する学生の学びと評価: 講義とリンクさせた看護過程演習とフィードバックの取り組み. *札幌医科大学保健医療学部紀要*, 13, 79-84.
- 松村三千子, 上平公子 (2009). 老年看護学授業「口腔ケア演習」を通して学生の学び. *岐阜医療科学大学紀要*, 3, 93-99.
- 長畑多代 (2004). シミュレーションゲーム形式による高齢者擬似体験学習の効果と課題. *大阪府立看護大学看護学部紀要*, 10(1), 59-64.
- 小野幸子, 古川直美, 坪井桂子他 (2008). 高齢者ケア施設の看護職を協力者に実践的取組みを紹介した授業の効果: 授業終了後の学生のレポートの分析より. *日本看護学教育学会誌学術集会講演集*, 18, 137.
- 高橋順子, 林裕子 (2009). 高齢者の自立に焦点をあてた老年看護学実習の展開: 観察能力の強化と教育方法の検討による学生の認識の変容. *看護総合科学研究会誌*, 12(1), 3-14.
- 富安俊子, 鬼塚美映子, 矢野知佐子他 (2004). 看護学生のための模擬患者によるコミュニケーション・トレーニング. *聖マリア学院紀要*, 19, 97-106.
- 坪井桂子 (2011). Special Feature 若手ナースがチャレンジ高齢者ケア施設への就職総論若手ナースの就職は本人・施設双方に発展のチャンスー介護老人保健施設への就職を支援した事例からー, *コミュニティケア*, 13(3) 60-63.
- 坪井桂子 (2013). 「高齢者看護の実践能力を育成する教育支援プログラム」を基盤とした3年間の支援, *コミュニティケア* 15 (10), 60-66.